

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

子どもが大きく成長するとき

校長 澁谷 一男

新しい水がたたえられたプール。雲の隙間から時折注がれる陽光に水面が乱反射し、まばゆい光を放っている。まるで子どもたちの到来を今か今かと待ちわびるように。

しかし、水泳の授業が始まる頃は、梅雨寒の日が続くことが多い。運動会の頃はあんなに暑かったのにと、曇天模様の空を見上げながら恨めしく思う。

風薫る5月はどこ吹く風とでも言わんばかりに、今年の運動会は、まさに暑さとの闘いだっただ。

子どもたちの健康と安全が最優先されなければならない。一方で、これまで子どもたちが一生懸命に練習してことを取りやめたくはない。こうした葛藤の中、1日で最も気温が高くなる午後2時までには全日程を終了することを決めた。どうすればそれが可能か、全職員で知恵を絞り、話し合った。

入場した状態で開会式を始める、全学年の徒競走を連続して行うことで進行を早める、午前の応援合戦・高学年の団体種目（騎馬戦）・PTA種目を割愛するなど、プログラムの変更を試みた。

また、適宜の水分補給のほか、徒競走を終えた学年から中庭や校舎内に避難させる、スタート地点にテントを設置する、応援席での応援を限定する、応援席後ろの木陰で休ませるなど、でき得る限りの対策を取った。

午前の応援合戦と騎馬戦の割愛は断腸の思いであったが、ほぼ予定どおり、無事に実施できたことに安堵した。

何にも増してうれしかったのは、子どもたちの頑張りだ。あの暑さの中、競技でも応援でも係の仕事でも、全てに全力で取り組む姿を見せてくれた。ひたむきなその姿に胸が熱くなった。「感動をありがとう！」閉会式での言葉は、心から発した言葉だった。この経験は、一回りも二回りも子どもたちを大きく成長させたことだろう。これこそが学校行事を行うことの意義なのだ。

大きな行事を終え、落ち着いた雰囲気を取り戻した学校では、教育相談が行われ、担任が一人一人の子どもとじっくり対話している。1学期後半、子どもたちはどんな成長を見せてくれるか。

